

# 女児の自閉症 帝王切開で多く

帝王切開で生まれた女児は自閉症スペクトラム障害と診断される頻度が高い。こんな研究結果を、富山大の研究チームが発表した。小児科学系専門誌「BMC Pediatrics」で6月19日にオンライン掲載された。

調査は環境省が全国規模で実施する「エコチル調査」に参加した約6万5000組の母子を対象に実施。出産方法と3歳時

産道通った子の1.82倍  
富山大研究チーム発表

点における神経発達症の有無、性別の関連を調査した。

調査によると、帝王切開の子どもは産道を通って生まれた子どもと比べ、自閉症スペクトラム障害と診断される頻度が1.38倍になった。女児は1.82倍、男児は1.24倍で、倍率の低い男児は差がなかったとも考えられるという。

一方、調査は3歳時点のため、診断が下されていない子どもがいるという課題があり、吉田丈俊・富山大付属病院周産母子センター長は「学童期に同じ解析を行うなど、注意深く調査を進める必要がある」と指摘している。